販売用資料

真の成長機会を幅広く発掘する。

フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）
Bコース（為替ヘッジなし）
Cコース
（毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり）
Dコース
（毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし）

追加型投信／海外／株式

2025年5月

「投資信託説明書（交付目論見書）」のご請求・お申込みは…

大和証券
Daiwa Securities

<販売会社>
商号等　大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号
加入協会　日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会／一般社団法人日本STO協会

設定・運用は…

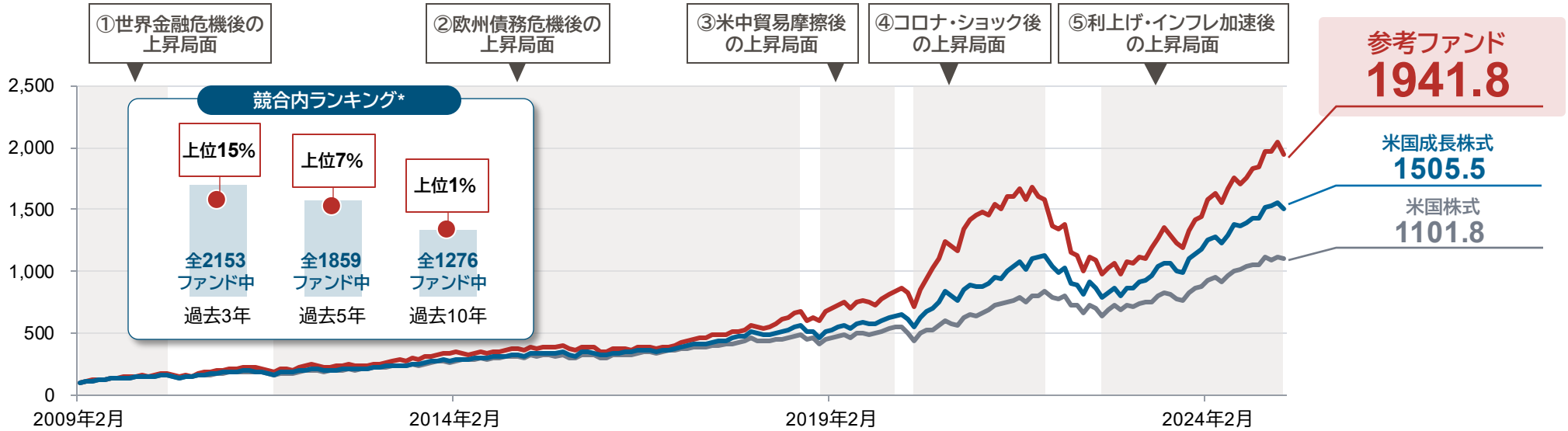
Fidelity INTERNATIONAL フィデリティ投信株式会社

<委託会社>
商号等　フィデリティ投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第388号
加入協会　一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

長期にわたり「真のグロース・オポチュニティ（成長機会）」を追求し、優れた実績を誇る成長株戦略

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

参考ファンドは特に**上昇相場において力強いパフォーマンスを発揮**し、競合戦略の中でも優れた実績を有します。



各局面の騰落率	①世界金融危機後 2009年2月末～2010年4月末	②欧州債務危機後 2011年9月末～2018年9月末	③米中貿易摩擦後 2018年12月末～2019年12月末	④コロナ・ショック後 2020年3月末～2021年12月末	⑤利上げ・インフレ加速後 2022年9月末～2025年2月末現在
参考ファンド	80%	254%	40%	120%	98%
米国成長株式	65%	232%	36%	106%	91%
米国株式	65%	199%	31%	90%	72%

（注）FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。米国成長株式：Russell 1000 Grow th Index（税引前配当込み）、米国株式：S&P500種指数（税引前配当込み）。米ドルベース。期間は2009年2月末～2025年2月末の月次データ。期初を100として指数化。チャートの期間については、世界金融危機前後で経済・金融市場の環境が大きく変化したことを踏まえ、世界金融危機後の直近の長期上昇局面における起点となる2009年2月末を開始時点とする。各上昇局面は、S&P500種指数（米ドルベース）が、直近最高値から10%以上下落せずに継続して上昇する期間において、最安値を開始時点とし、最高値を終点とする。（※上昇局面が1年に満たない場合は除く。）⑤の局面は、2022年9月末～2025年2月末の騰落率。

*Lipper Global分類の米国株式・ラージ・グロース・カテゴリにおけるランキング。この表に含まれるファンド情報のすべては、LSEG Lipperによって提供されたものであり、以下の条件に従うものとします。Copyright2025©LSEG. すべての権利はLSEGに帰属します。Lipperはコンテンツの誤りや遅延、またはそれに依拠して取られた行動に対して責任を負いません。上記は過去の実績であり、将来の動向、数値などを保証もしくは示唆するものではありません。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

Fidelity INTERNATIONAL

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

当ファンドの特徴

1 3-7年先の企業価値を見据えて、複数の視点から成長銘柄を発掘

2 機動的な運用で幅広い投資機会を追求

3 優れた運用を支える調査体制

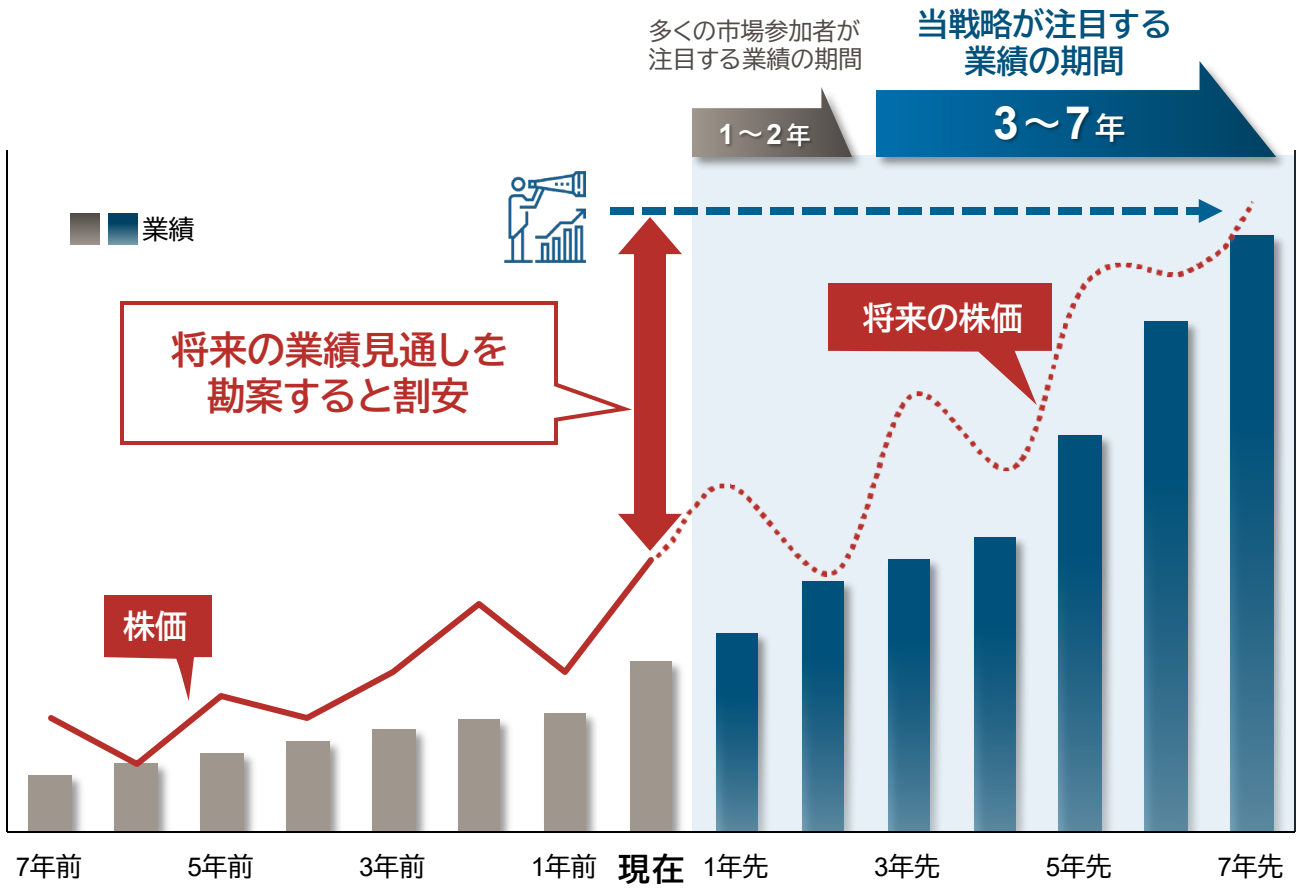
Fidelity INTERNATIONAL

当ファンドの特徴 ①：3-7年先の企業価値を見据えて、複数の観点から成長銘柄を発掘

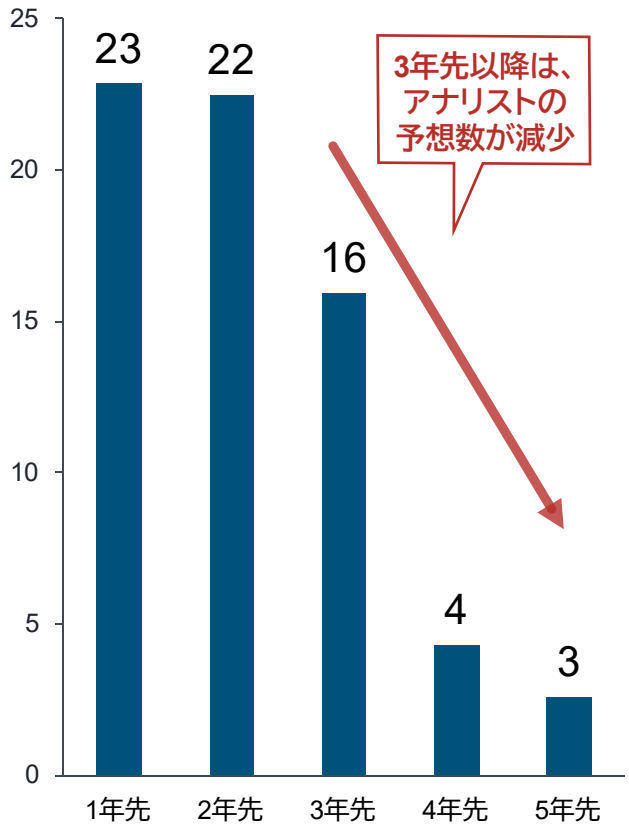
3-7年先の業績予想に基づき魅力的な高成長企業に投資

多くの市場参加者は短期的な企業業績に注目する傾向があり、長期の業績に対する注目度は相対的に低くなっています。
当戦略では、優れた企業に割安な価格で投資をするべく、**3年先以降の企業業績をより注視して分析**を行っています。

業績と株価のイメージ図



アナリストの収益予想数



（注）左：フィデリティ投信作成。図はあくまでイメージです。右：LSEGよりフィデリティ投信作成。2024年12月末時点のS&P500種指数の構成銘柄の内、データ取得可能な銘柄毎のアナリスト収益予想数の平均。
収益予想数の平均について、小数点以下を四捨五入して表示。

当ファンドの特徴①：3-7年先の企業価値を見据えて、複数の観点から成長銘柄を発掘

「真のグロース・オポチュニティ（成長機会）」を複数の観点で発掘

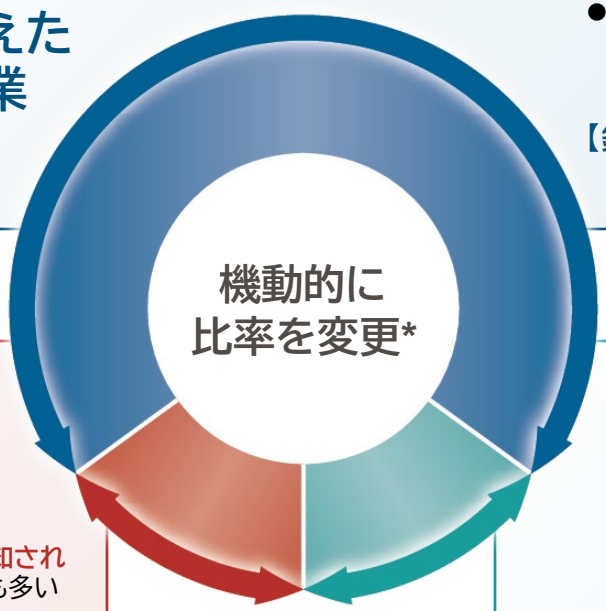
当戦略では、**あらゆる企業の成長局面**を捉えるべく、**特徴や役割の異なる3つのカテゴリー**に成長企業を分類します。長期的な成長企業をポートフォリオの中心としながらも、ニッチな急成長企業や打たれ強い成長企業にも幅広く成長機会を見出し、市場環境に応じて機動的に各カテゴリーの強弱をつけることで様々な局面において優れたパフォーマンスを追求します。

ポートフォリオの中心として機能

時代の潮流を捉えた長期的な成長企業

- 収益性の高い確立されたビジネスモデルを持ち、**長期にわたる持続的かつ高い成長率**を実現する企業

【銘柄例】エヌビディア、メタ



株価急上昇の可能性を秘め運用成果への大きな貢献を期待

ニッチな急成長企業

- **急速な売上・利益の成長ポテンシャル**を持つ企業
- 革新的な製品・サービスを持つが**まだ市場から認知されておらず**、時価総額が比較的に小さい**中小型銘柄**も多い

【銘柄例】トランスメディクス・グループ、ロク

相対的なバリュエーション面の魅力で、他のカテゴリーを補う動き

打たれ強い成長企業

- ビジネスの安定性は高いものの、**一時的にバリュエーションが割安**で、利益率改善などにより、高い利益成長を実現できる可能性のある企業

【銘柄例】T-モバイルUS、エクソン・モービル

（注）上記はイメージであり、相場環境によっては上記のような運用ができない場合があります。2025年2月時点。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。
*各カテゴリーの比率は、ファンダメンタルズ分析による個別銘柄選定の結果であり、カテゴリー毎に比率を決定するものではありません。

当ファンドの特徴 ②：機動的な運用で幅広い投資機会を追求

市場の変化や株価の変動を捉えた機動的な運用により、パフォーマンスを追求

中長期で高い成長が期待できる企業を選定しながらも、過去、市場の変動が高まった局面などでは、
環境変化の兆候をいち早く捉えて、各局面での投資魅力が大きいカテゴリーの銘柄に着目した積極的な売買を行いました。

参考ファンドのリターンと売買回転率の推移

2015年12月～2016年6月
ニッチな急成長企業に着目

投資行動 チャイナショックを受けた中国の景気不安が株式市場の重石となるなか、急速な収益成長が期待できる中小型銘柄を見出し、多数組み入れ。

投資成果 組み入れた中小型銘柄が2017年以降のパフォーマンスに大きく貢献。その一部はコロナ・ショック後の上昇相場でも力強いリターンの源泉に。

2022年1月～6月
打たれ強い成長企業に着目

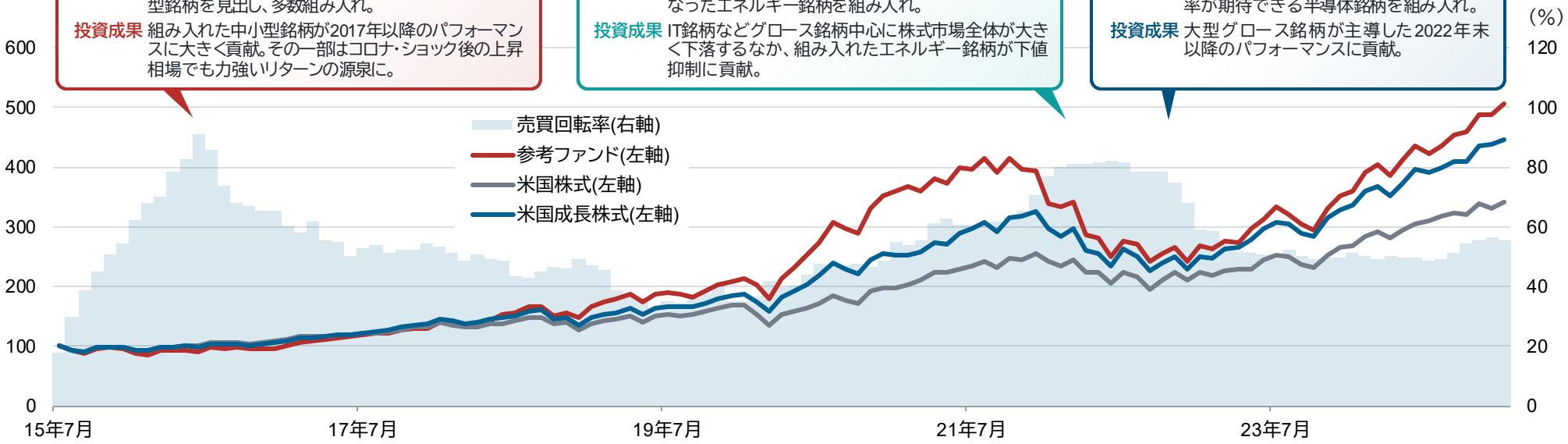
投資行動 米国の金融引き締めによる市場調整局面で、安定したビジネスを行いながらもバリュエーションが割安となったエネルギー銘柄を組み入れ。

投資成果 IT銘柄などグロース銘柄中心に株式市場全体が大きく下落するなか、組み入れたエネルギー銘柄が下値抑制に貢献。

2022年8月～2023年2月
長期的な成長企業に着目

投資行動 生成AIへの注目が本格化する前に、優れた競争力を有し、長期にわたり高い収益率が期待できる半導体銘柄を組み入れ。

投資成果 大型グロース銘柄が主導した2022年末以降のパフォーマンスに貢献。



（注）FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。米国成長株式：Russell 1000 Growth Index（税引前配当込み）、米国株式：S&P500種指数（税引前配当込み）。米ドルベース。期間は2015年7月末～2025年1月末の月次データ。リターンは期初を100として指数化。売買回転率は過去12カ月の月次ローリング。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

参考ファンドにおける相対リターン寄与度上位10銘柄

過去、売買回転率が上昇した局面で着目したカテゴリーの銘柄は、その後のパフォーマンスに貢献しました。

2017年

	銘柄名	セクター	時価総額サイズ
1	テスラ	一般消費財・サービス	大型株
2	ジュール・ラボ	生活必需品	その他
3	カーバナ	一般消費財・サービス	小型株
4	アルナイラム・ファーマシューティカルズ	ヘルスケア	中型株
5	シーボー・グローバル・マーケッツ	金融	中型株
6	ロク	コミュニケーション・サービス	小型株
7	ソーラーエッジ・テクノロジーズ	情報技術	小型株
8	ブルーバード・バイオ	ヘルスケア	中型株
9	セルジーン	ヘルスケア	大型株
10	バーテックス・ファーマシューティカルズ	ヘルスケア	中型株

2022年

	銘柄名	セクター	時価総額サイズ
1	TモバイルUS	コミュニケーション・サービス	大型株
2	エクソン・モービル	エネルギー	大型株
3	ヘス	エネルギー	中型株
4	トランスメディクス・グループ	ヘルスケア	小型株
5	テスラ	一般消費財・サービス	大型株
6	ヒューマナ	ヘルスケア	大型株
7	ボストン・サイエンティフィック	ヘルスケア	大型株
8	PG&E	公益	中型株
9	ペイパル・ホールディングス	金融	大型株
10	ネットフリックス	コミュニケーション・サービス	大型株

2023年

	銘柄名	セクター	時価総額サイズ
1	エヌビディア	情報技術	大型株
2	ウーバー・テクノロジーズ	資本財・サービス	大型株
3	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	大型株
4	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）	情報技術	大型株
5	ロク	コミュニケーション・サービス	中型株
6	カーバナ	一般消費財・サービス	中型株
7	アッヴィ	ヘルスケア	大型株
8	ペプシコ	生活必需品	大型株
9	オーク・ストリート・ヘルス	ヘルスケア	中型株
10	スナップ	コミュニケーション・サービス	中型株

主に貢献したニッチな急成長銘柄

投資事例 ソーラーエッジ・テクノロジーズ

銘柄概要：太陽光発電のソリューション提供を行う企業。発電効率の最適化を行うツールなどを開発。

着眼点：収益成長力に対して割安な中小型銘柄が増加していたなか、成長余地の大きさに注目して保有を開始し、2017年の大幅上昇により、リターンに貢献しました。

1年リターン	ソーラーエッジ	米国株式	米国成長株式
	202.8%	21.8%	30.2%

主に貢献した打たれ強い銘柄

投資事例 ヘス

銘柄概要：原油と天然ガスの開発・生産・販売を行うエネルギー企業。2023年に石油メジャーのシェブロンが買収。

着眼点：価値の大きなガイアナ油田の権益を保有しており、その市場価値が十分に評価されていないと判断し、保有を開始しました。その価値が見直されたことで、軟調な市場環境下でも大幅に上昇しました。

1年リターン	ヘス	米国株式	米国成長株式
	94.1%	-18.1%	-29.1%

主に貢献した長期的な成長企業

投資事例 アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)

銘柄概要：高性能な半導体を提供するIT企業で、多様な製品ラインを持つことが強み。

着眼点：市場で生成AIへの注目が本格化する直前の2022年から、製品の競争力や市場規模の拡大余地から段階的に保有を拡大しました。2023年には生成AI関連銘柄として急上昇し、リターンに貢献しました。

1年リターン	AMD	米国株式	米国成長株式
	127.6%	26.3%	42.7%

（注）FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。上側の表は参考ファンドの年間の相対リターン寄与度上位10銘柄（対米国成長株式）。時価総額サイズは各年末時点。大型株：500億米ドル以上、中型株：20億米ドル以上500億米ドル未満、小型株：20億米ドル未満、その他:未公開株等で分類。業種はMSCI/S&P世界産業分類基準に準拠。米国株式：S&P500種指数（税引前配当込み）、米国成長株式：Russell 1000 Growth Index（税引前配当込み）。米ドルベース。各投資事例のカテゴリーは投資時点のものであり、カテゴリーは将来的に変化する可能性があります。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

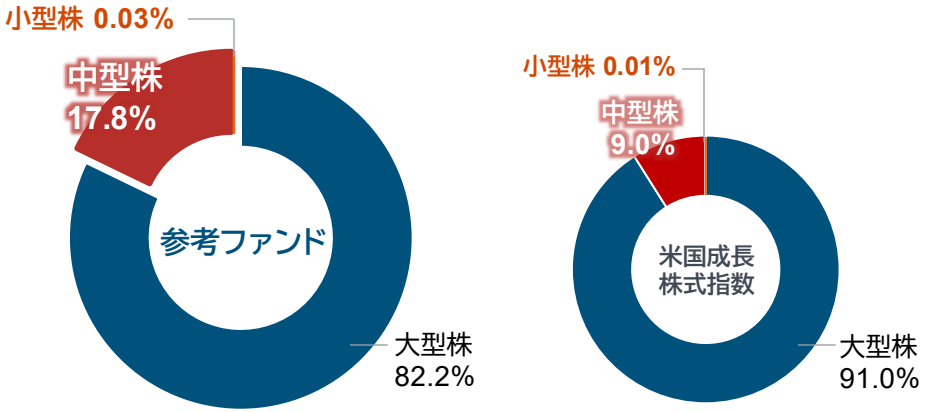
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

当ファンドの特徴 ②：機動的な運用で幅広い投資機会を追求

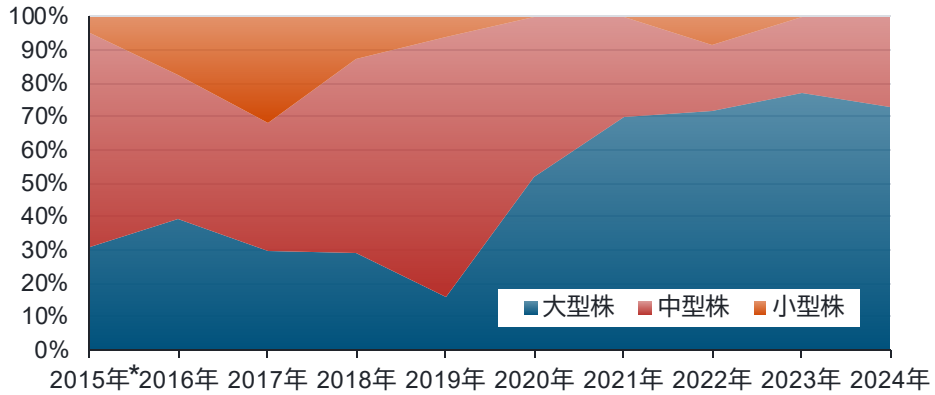
時価総額や業種に捉われず、幅広い投資

参考ファンドでは、大型株の投資のみならず、市場参加者の注目度が低いために企業価値や成長性に対して割安な中小型株への投資を行ってきました。また、幅広い業種が過去のリターンに貢献しており、**大型テクノロジー株だけに依存せず、幅広い銘柄から成長機会を発掘**していきます。

時価総額別保有比率の比較(2024年12月末時点)



参考ファンドにおける相対リターン寄与度上位10銘柄の企業規模別の寄与度割合(暦年ベース)



参考ファンドにおける相対リターン寄与度上位3業種

	2015年*	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1	資本財	一般消費財	一般消費財	生活必需品	一般消費財	一般消費財	生活必需品	エネルギー	資本財	情報技術
2	通信サービス	エネルギー	生活必需品	情報技術	通信サービス	情報技術	素材	公益	生活必需品	一般消費財
3	素材	不動産	金融	資本財	ヘルスケア	通信サービス	不動産	ヘルスケア	一般消費財	生活必需品

(注) FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。米国成長株式：Russell 1000 Growth Index（税引前配当込み）。米ドルベース。左上は2024年12月末時点。右上のグラフ及び下側の表は2015年～2024年。
*2015年は現運用者(カイル・ウィーバー)が就任した2015年7月から12月までの6カ月で算出。時価総額サイズは大型株：500億米ドル以上、中型株：20億米ドル以上500億米ドル未満、小型株：20億米ドル未満。左上および右上のグラフでは未上場株式は除外。相対リターン寄与度上位10銘柄の寄与度合計を100%として割合を計算。業種はMSCI/S&P世界産業分類基準に準拠。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

当ファンドの特徴③：優れた運用を支える調査体制

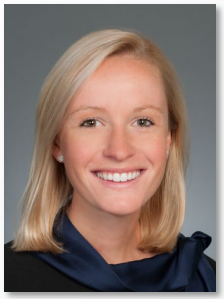
フィデリティの根幹となる徹底的な企業調査

フィデリティは、企業面談などを通じた徹底的なボトム・アップ・アプローチを強みとし、作成される企業調査レポートは年間2万件にも及びます。
当ファンドは、豊富な経歴を持つ2名の共同運用体制で、世界最大級の強固なリサーチ体制を活用しながら様々な視点から成長銘柄を発掘しています。

共同運用主担当者

カイル・ウィーバー
拠点：ボストン
業界経験：16年

テクノロジーや通信に関連するポートフォリオの運用を経験。2015年から当ファンドの参考ファンド（米国籍）を担当。

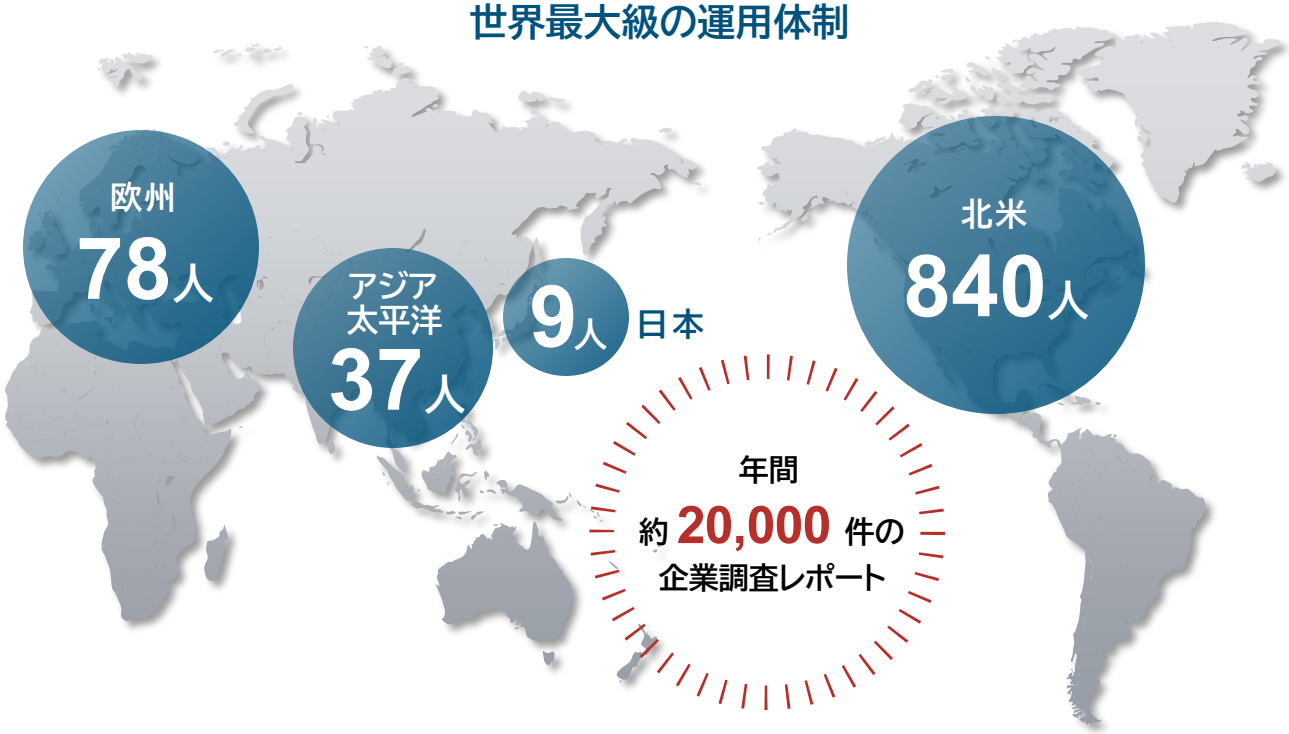


ベッキー・ベイカー
拠点：ボストン
業界経験：11年

テクノロジーや消費に関連するポートフォリオの運用に従事した後、2023年から当ファンドの参考ファンド（米国籍）を担当。

情報の横断的な相互共有が、当社独自のファンダメンタルズ分析の強み

世界最大級の運用体制



全世界で960人以上の運用プロフェッショナル

（注）FMR Coよりフィデリティ投信作成。運用プロフェッショナル数は2024年12月末時点。ポートフォリオ・マネージャー、アナリスト、トレーダー、部門マネジメント等を含んだ人数。
企業調査レポート数は、株式運用チーム全体での2024年の作成数。

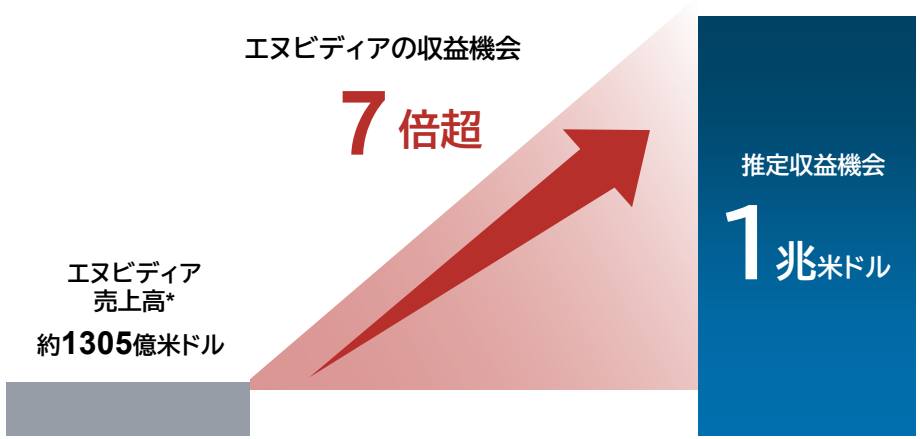
時代の潮流を捉えた長期的な成長企業

エヌビディア

高い競争優位性、強力な価格決定力を有する。

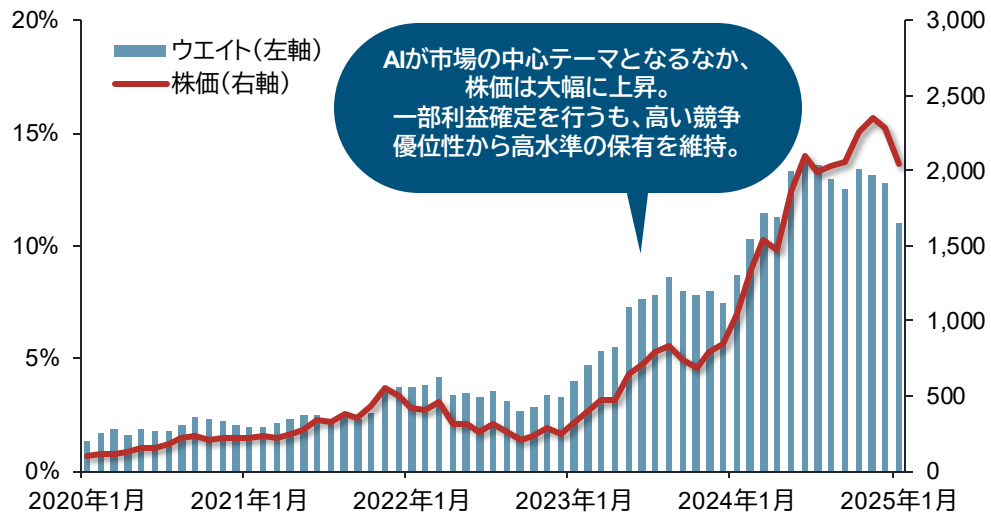
企業概要	画像処理半導体(GPU)メーカー。生成AI(人工知能)や大規模言語モデル(LLM)に対応した「H100」や画像生成AIなど推論AIに特化した「L4」など超高速GPUに強み。	注目点	参考ファンドでは、ゲーミング向けの優れた半導体や技術進化の取り組みを評価し2009年に投資を開始。AI・データセンターの半導体需要から長期の成長を見込み段階的に保有拡大。

テクノロジーの進化に伴い収益機会が拡大



AIや自動学習の進化・普及に伴い収益の拡大が見込まれる

参考ファンドでの保有ウエイトと株価の推移



(注)FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。左図:NVIDIA「InvestorPresentationFebruary26,2025」より。*2025年1月26日時点における過去12か月の実績。右図:ウエイト、株価の期間は2020年1月末～2025年1月末。米ドルベース。月次データ。株価は期初を100として指数化。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

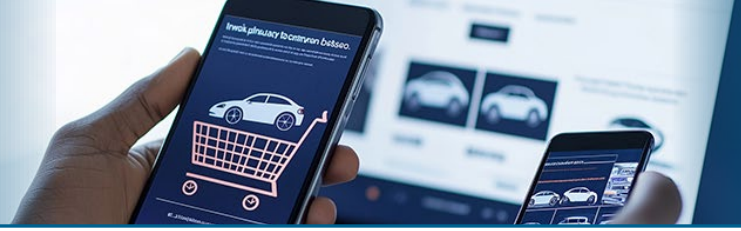
参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

Fidelity INTERNATIONAL

ニッチな急成長企業

カーバナ

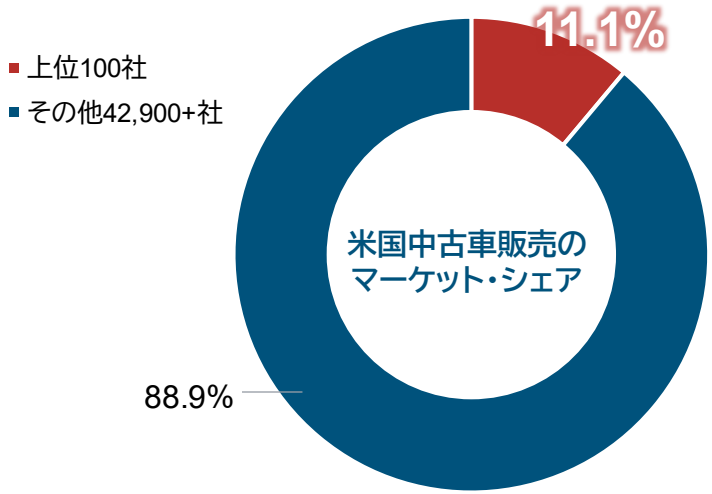


差別化されたユニークなビジネスモデルで、高い成長ポテンシャルを有する。

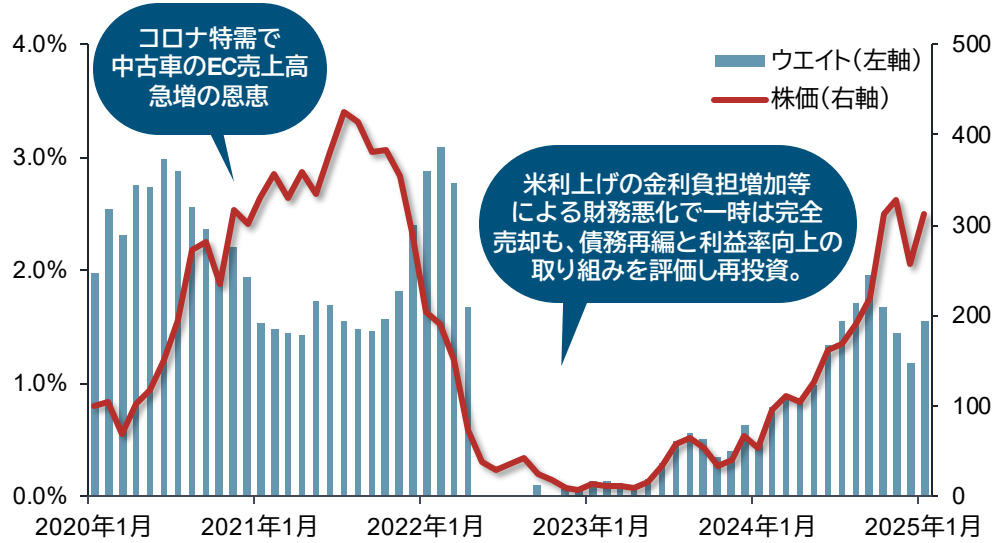
企業概要　中古車売買のECプラットフォームを運営。自動車購入に向けたスピーディーな融資の提供から配達・受取の確定まで、従来の中古車ディーラーとは一線を画すオンライン上でのシームレスなサービスを提供。

注目点　消費者行動変化の潮流を捉えた独自のEコマースモデルと、仕入れから整備・物流・金融サービスまで垂直統合した収益性の高いビジネスモデルに着目。テクノロジーを駆使した車両調達や物流の最適化など、巨大ながらも未だ勝者不在の米国中古車市場で競争優位性が高く、シェア拡大余地に期待。

シェア拡大余地が大きい米国中古車市場



参考ファンドでの保有ウエイトと株価の推移



(注)FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。左図:Carvana「Introduction to Carvana February 2025」より。右図:ウエイト、株価の期間は2020年1月末～2025年1月末。米ドルベース。月次データ。株価は期初を100として指数化。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

Fidelity INTERNATIONAL

打たれ強い成長企業

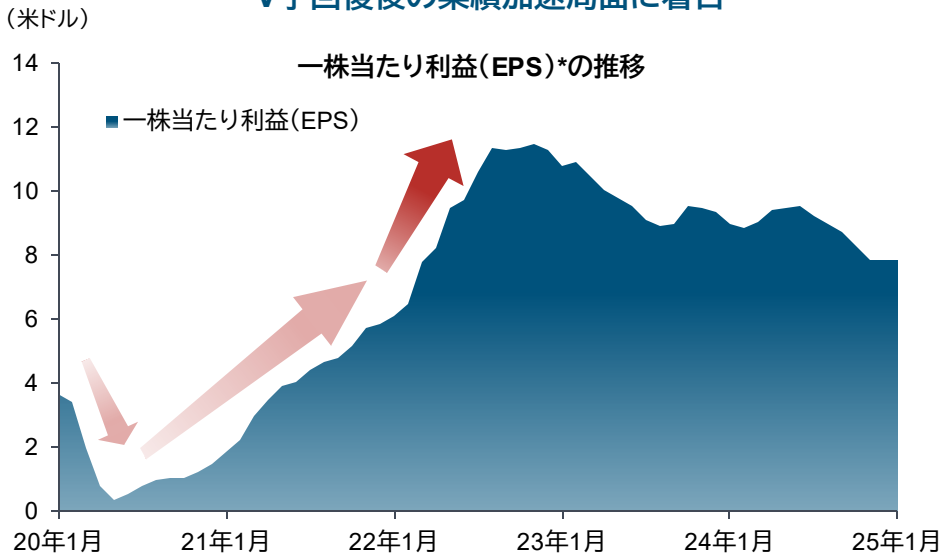
エクソン・モービル・コーポレーション

需給環境の的確な分析で、利益拡大の余地を捉える。

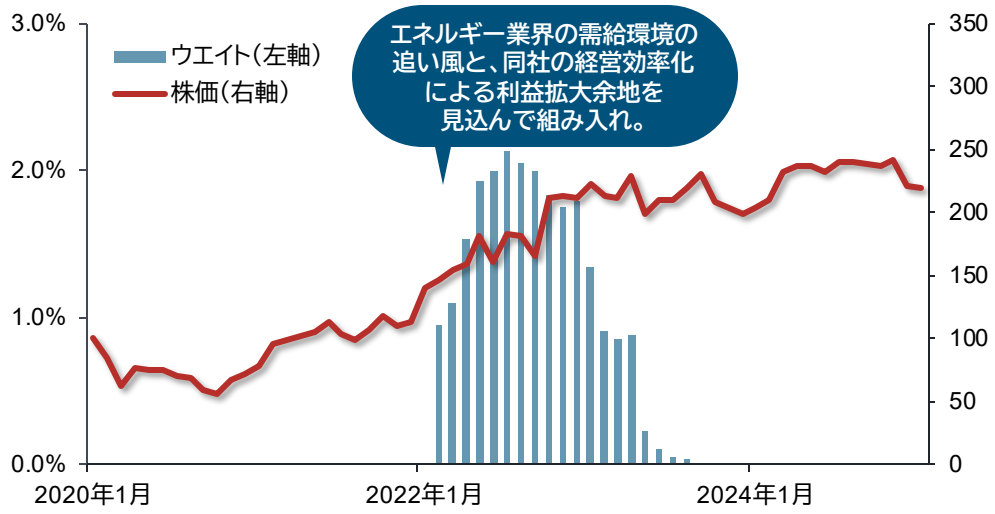
企業概要　原油や天然ガスの探査・生産ならびに石油製品・石油化学製品などの製造・取引・輸送・販売を行う。足元では老朽化資産の売却を進めている。

注目点　コロナ禍を経た経済活動再開や地政学リスク等でエネルギー需要が高まるなか、化石燃料の生産能力増強の機会は限られ、コストを抑制し利益率改善に取り組む同社は特に需給面での恩恵を受けやすいと判断。保有拡大後、エネルギー価格のピークアウトと業績拡大が一巡するなかで利益を確定。

V字回復後の業績加速局面に着目



参考ファンドでの保有ウエイトと株価の推移



（注）FMR Co、LSEGよりフィデリティ投信作成。左図：期間は2020年1月末～2025年1月末。*一株当たり利益（EPS）は12カ月先予想。米ドルベース。右図：ウエイト、株価の期間は2020年1月末～2025年1月末。米ドルベース。月次データ。株価は期初を100として指数化。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

参考ファンドの実績は、当ファンドの投資対象である「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」と同様の運用担当者、投資哲学、運用戦略に基づき運用されている米国籍投資信託「フィデリティ・アドバイザー・グロース・オポチュニティーズ・ファンド クラスA」の実績です。日本では販売されておりません。参考情報として提供することのみを目的として掲載しており、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」の運用実績ではありません。また、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」とは費用等が異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

当ファンドの運用プロセス

対象企業
（世界の上場企業の内、流動性等を考慮して選別）

- フィデリティのグローバル調査体制を活用し、幅広く銘柄を調査

投資機会の発掘

- アナリストとの積極的な協業や投資先企業との面談などを通じて調査を実施

ポートフォリオ構築

- 企業の成長性や業績に対する株価の割安度に着目して構築

ファンド

- 幅広い銘柄に分散投資
（ファンドの想定保有銘柄　約100-300銘柄 ）

（注）2025年2月末時点。数値は概算値です。予告なく変更される場合があります。また、相場環境によっては上記のような運用ができない場合があります。写真はイメージです。

組入上位銘柄（2025年2月末時点）

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

グロース・オポチュニティ・ファンドの組入銘柄

全銘柄数	97	S&P500種指数との共通銘柄数	53

銘柄	業種	国・地域	概要	組入比率
マイクロソフト	情報技術	アメリカ	ソフトウェアメーカーとして、圧倒的なシェアを誇る「Windows」や「Office」などを手がける。加えて、成長性の高いクラウド事業を拡大し、クラウド・プラットフォーム「Azure」など提供。	8.0%
エヌビディア	情報技術	アメリカ	コンピューターの画像描写や演算の処理を行う半導体チップ等を開発する半導体メーカー。	7.3%
メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	アメリカ	「フェイスブック」や「インスタグラム」といったアプリケーションを提供するファミリーアプリ事業とメタバース関連のリアリティラボ事業からなる。人工知能（AI）分野への取り組みも強化中。	6.5%
アップル	情報技術	アメリカ	スマートフォンやPC、タブレット、ウェアラブル端末の設計や販売を行い、関連する多様なサービスも提供。	6.4%
アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	アメリカ	小売りウェブサイト「Amazon」や、電子書籍関連サービス「Kindle」に加えて、クラウドでウェブサイトやビッグデータなどのソリューションを提供する「Amazon Web Services（AWS）」事業を手がける。	5.5%
ブロードコム	情報技術	アメリカ	半導体の開発、設計、販売に従事。通信インフラやデータセンターなどに関連する製品を手掛ける。積極的な企業買収を通じて成長。	4.9%
アルファベット（クラスC）	コミュニケーション・サービス	アメリカ	グーグルのすべての発行済み株式を所有。傘下には、健康事業や在宅ビジネスを手がける企業も含む。	3.8%
ロク	コミュニケーション・サービス	アメリカ	米国を中心に、スマートTV向け機器を通じてストリーミング視聴サービスをユーザーに提供。	3.6%
ビザ	金融	アメリカ	世界大手のクレジットカード会社。決済サービスやデータ転送サービスなどを提供。	3.2%
ネットフリックス	コミュニケーション・サービス	アメリカ	映像ストリーミング配信事業を世界中で展開。映画やテレビ作品の配信だけでなく、オリジナル作品の制作・配信も手がける。	3.0%

（注）LSEGよりフィデリティ投信作成。2025年2月末時点。国・地域は発行国・地域を表示。業種はMSCI/S&P世界産業分類基準に準拠。対純資産総額比率。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

Fidelity INTERNATIONAL

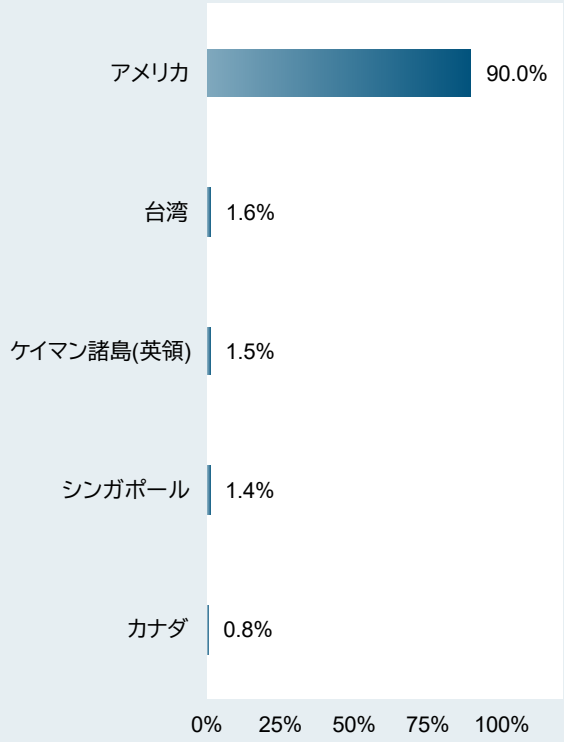
国・地域、業種配分とポートフォリオ特性（2025年2月末時点）

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

幅広い国・地域や業種から、有望な銘柄を発掘します。

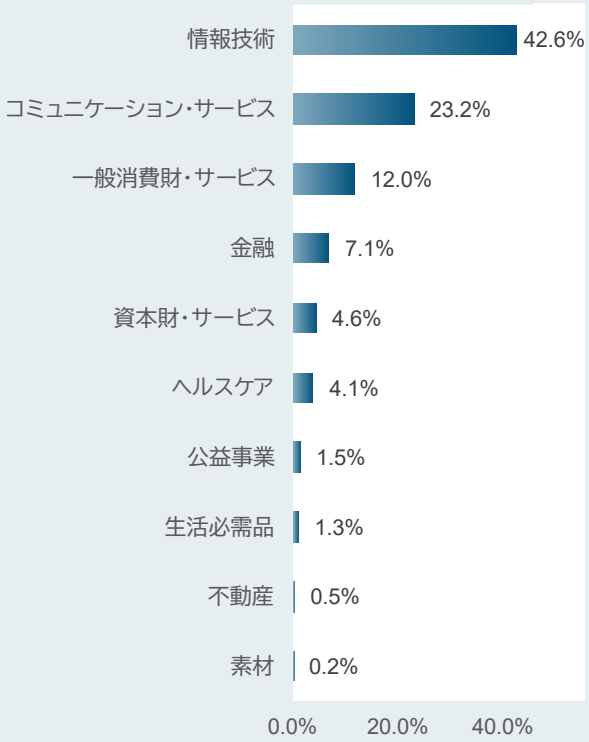
国・地域別配分

組入上位5カ国・地域



業種別配分

業種別組入状況



ポートフォリオ特性

	ファンド	S&P500（参考指数）
予想株価収益率（倍）	28.5	21.8
株価純資産倍率（倍）	9.7	5.1
EPS成長率(12カ月予想)	21.6	14.0

時価総額規模別の組み入れ	ファンド（%）	S&P500（参考指数）（%）
5兆円以上	84.6	91.1
1兆円以上5兆円未満	14.3	8.8
1兆円未満	1.1	0.1
合計	100.0	100.0

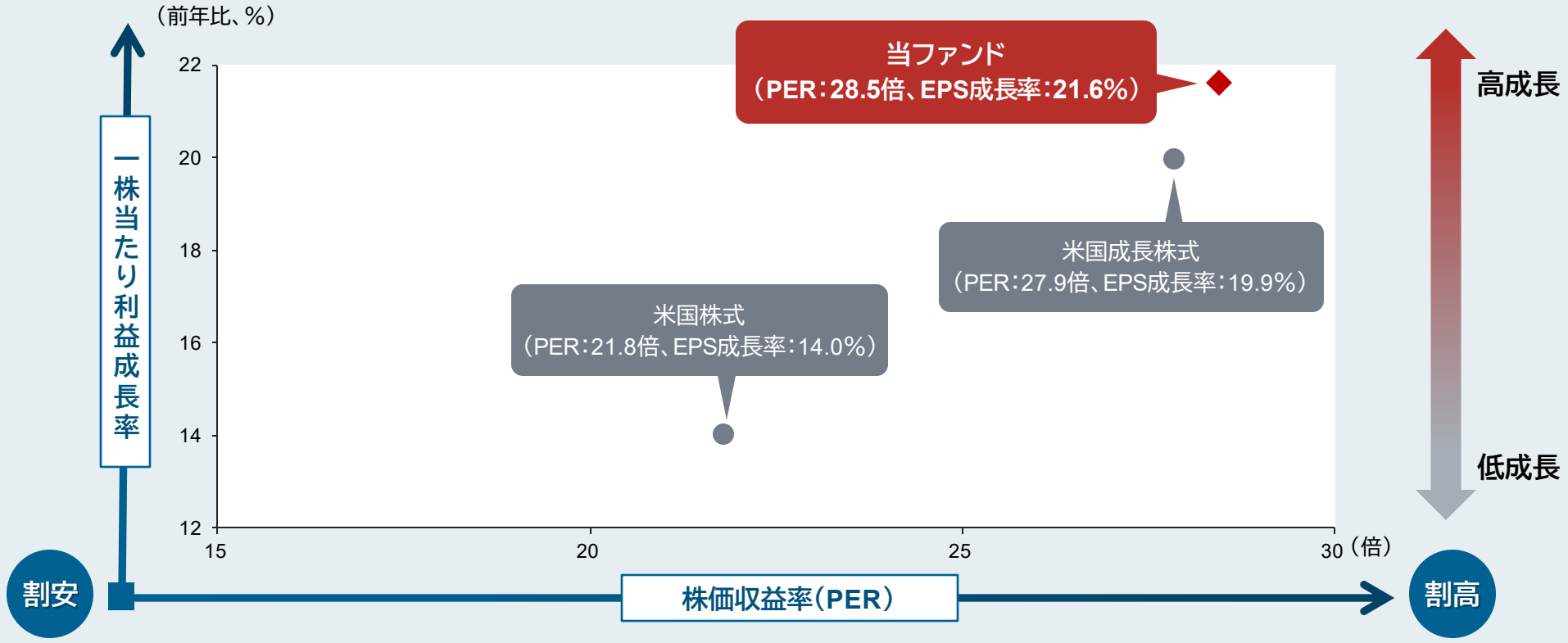
（注）フィデリティ投信作成。2025年2月末時点。マザーファンド・ベース。国・地域別配分および業種別配分は対純資産総額比率。時価総額規模別の組み入れは対投資資産比率。配分比率はそれぞれの項目を四捨五入して表示。国・地域は発行国・地域を表示。業種はMSCI/S&P世界産業分類基準に準拠。

Fidelity INTERNATIONAL

業績・バリュエーション指標・比較（2025年2月末時点）

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

業績指標（一株当たり利益（EPS）*成長率・株価収益率（PER）*）の比較



（注）FMR Coよりフィデリティ投信作成、2025年2月末時点。米国成長株式：Russell 1000 Grow th Index（税引前配当込み）、米国株式：S&P500種指数（税引前配当込み）。米ドルベース。*IBES予想（1年先）。当ファンドはマザーファンド・ベース。
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

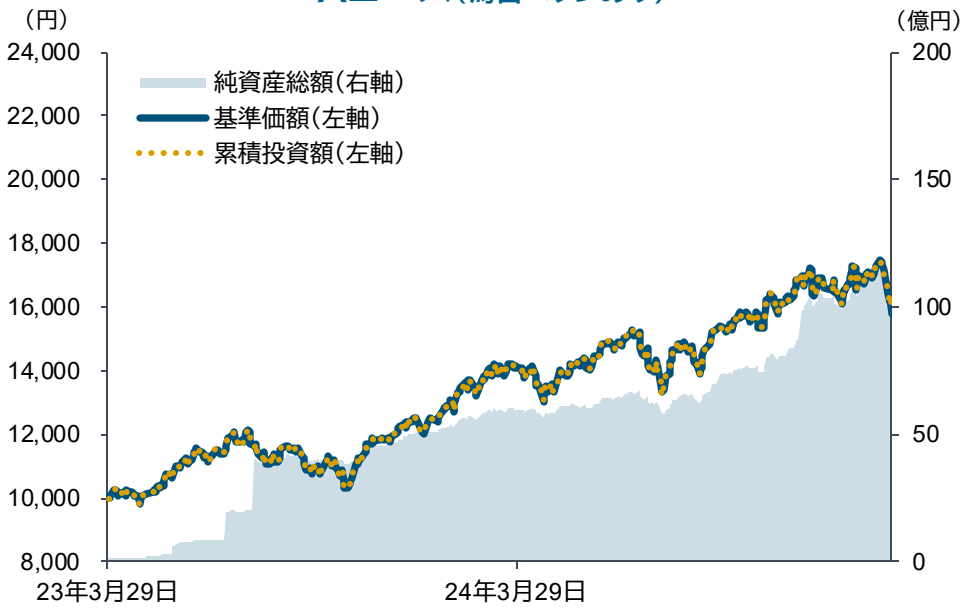
Fidelity INTERNATIONAL

ファンドの運用実績(1)

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

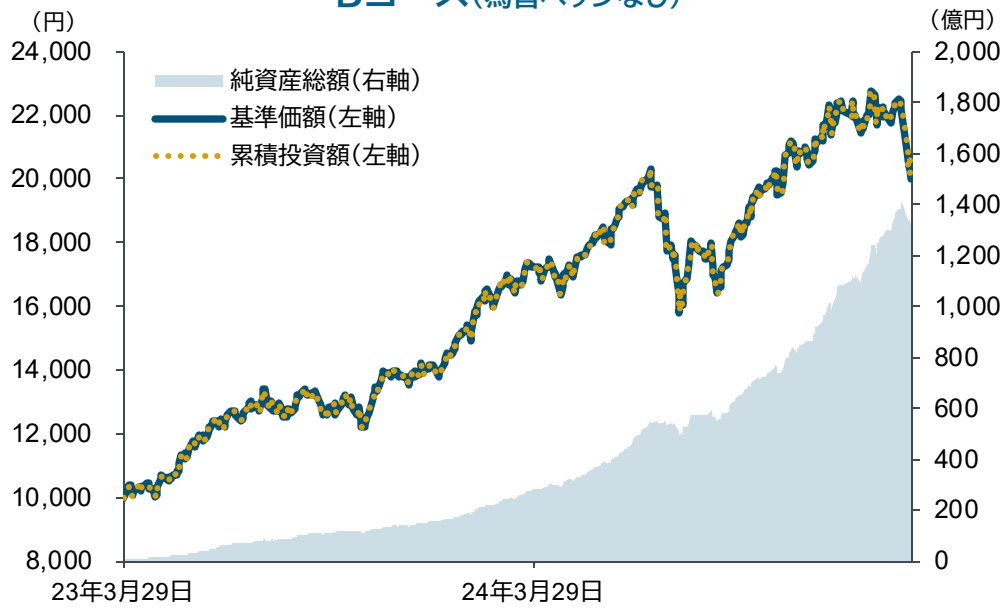
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド
基準価額、累積投資額、純資産総額の推移
(2023年3月29日(設定日)～2025年2月28日)

Aコース(為替ヘッジあり)



	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンドの累積リターン	-2.55%	8.42%	15.24%	-	58.02%

Bコース(為替ヘッジなし)



	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンドの累積リターン	-2.19%	14.55%	20.70%	-	100.08%

※基準価額は運用管理費用(後述の「運用管理費用(信託報酬)」参照)控除後のものです。
※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※上記の実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

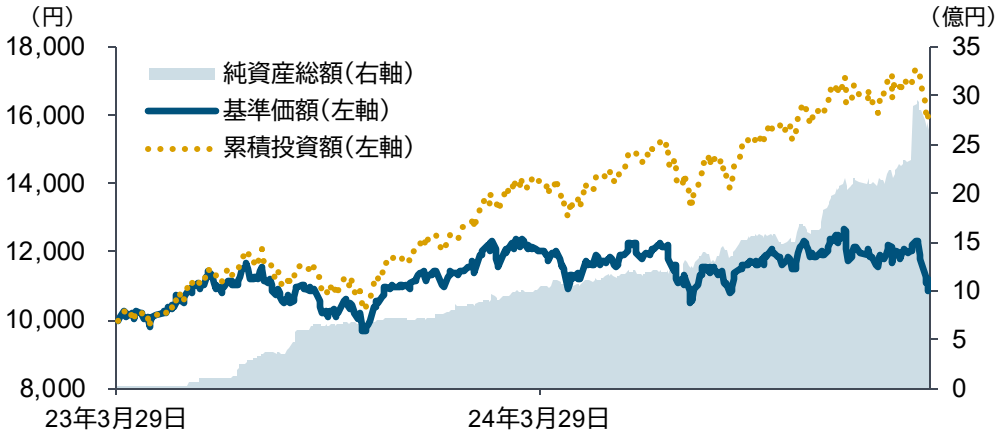
Fidelity INTERNATIONAL

ファンドの運用実績(2)

GROWTH OPPORTUNITY
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド

フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド
基準価額、累積投資額、純資産総額の推移
(2023年3月29日(設定日)～2025年2月28日)

Cコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり)

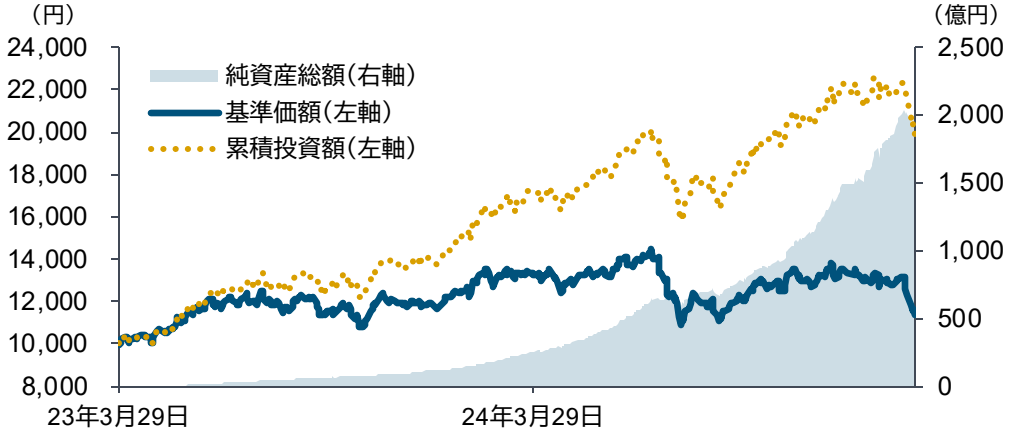


	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンドの累積リターン	-2.70%	7.95%	14.83%	-	57.06%

収益分配金(過去3期分および設定累計額)(1万口当たり／税引前)

第21期(24年12月)	第22期(25年1月)	第23期(25年2月)	設定来累計額
300円	200円	300円	4,300円

Dコース(毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)



	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンドの累積リターン	-2.23%	14.28%	20.40%	-	98.62%

収益分配金(過去3期分および設定累計額)(1万口当たり／税引前)

第21期(24年12月)	第22期(25年1月)	第23期(25年2月)	設定来累計額
400円	400円	400円	7,100円

※基準価額は運用管理費用(後述の「運用管理費用(信託報酬)」参照)控除後のものです。
※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※上記の実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
※分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。また、運用状況によっては分配を行わない場合があります。

Fidelity INTERNATIONAL

ファンドの特色

1	フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主として世界（除く日本）の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている企業の株式に投資を行い、投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
2	企業の成長性や業績に対する株価の割安度に着目し、運用成果の向上を目指します。
3	個別銘柄選択にあたっては、世界の主要拠点のアナリストによる徹底的な企業分析や直接面談による調査を活かした「ボトム・アップ・アプローチ＊」により、魅力的な投資機会の発掘に注力します。 ＊ボトム・アップ・アプローチとは、綿密な個別企業調査活動を行うことにより、企業の将来の成長性や財務内容などファンダメンタルズを調査・分析し、その結果をもとに運用する手法です。
4	マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。
5	Aコース／Cコースは、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。 Bコース／Dコースは、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
6	マザーファンドの運用にあたっては、FIAM　LLCに、運用の指図に関する権限を委託します。

※資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
※ファンドは「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・マザーファンド」を通じて投資を行います。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

収益分配方針

収益分配方針
（全コース共通）

- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
- 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

収益分配方針（Aコース／Bコース）

毎決算時（原則8月20日。同日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として上記の収益分配方針に基づき分配を行います。

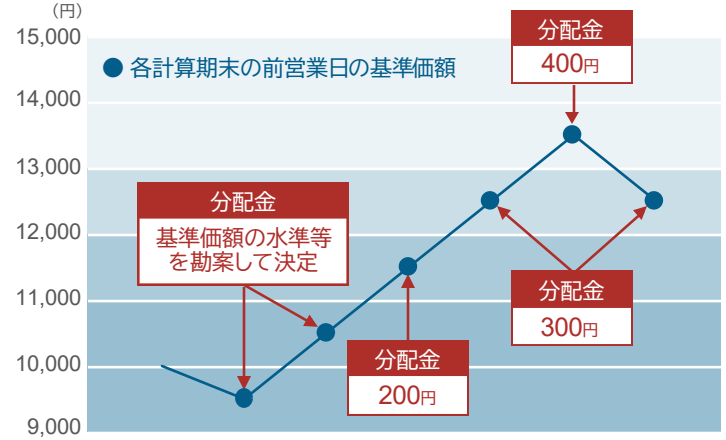
収益分配方針（Cコース／Dコース）

毎決算時（原則毎月20日。同日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として上記、及び以下の収益分配方針に基づき分配を行います。
毎計算期末の前営業日の基準価額に応じて、下記の金額の分配を目指します。

毎計算期末の前営業日の基準価額	分配金額（1万口当たり、税引前）
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上 12,000円未満	200円
12,000円以上 13,000円未満	300円
13,000円以上	400円

※毎計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等、基準価額水準や市場動向等によっては、委託会社の判断で上記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。
※基準価額に応じて、分配金額は変動します。基準価額が上記表に記載された基準価額水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
※分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。
※上記表に記載された基準価額および分配金額は将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

● 基準価額と分配金のイメージ



※上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を保証または示唆するものではありません。

Fidelity INTERNATIONAL

収益分配金に関する留意事項

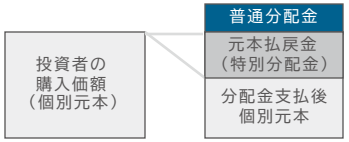
1 ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、それぞれの投資者ご自身の個別元本の一部払戻しに相当する場合があります。
2 分配金は預貯金の利息とは異なり、分配金支払い後の純資産は減少し、基準価額の下落要因となります。
3 分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落します。

分配方針や頻度の異なるコースが存在する場合は、投資者は自身の選好に応じて投資するコースを選択することができます。販売会社によってはコース間でスイッチングが可能です。

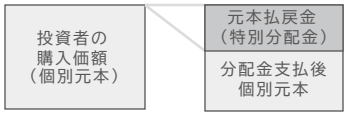
1

投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。

分配金の一部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

●「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約（償還）時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。
●「普通分配金」とは、個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
●「元本払戻金（特別分配金）」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

2

分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行われますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

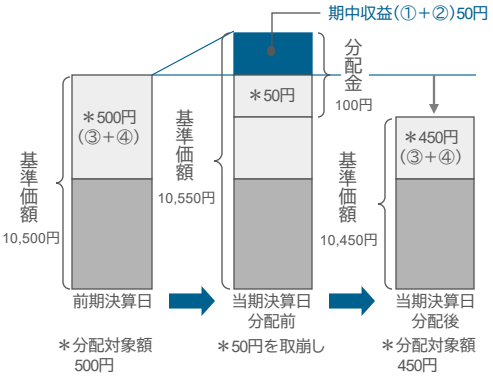
3

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

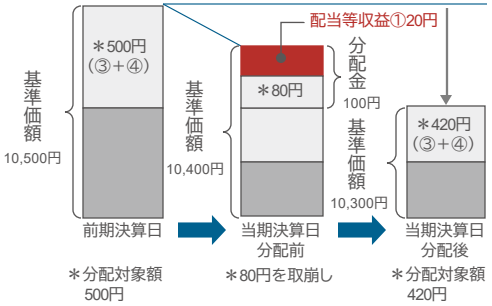
投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。

※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※右記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

前期決算から基準価額が上昇
当期計算期間の収益がプラスの場合



前期決算から基準価額が下落
当期計算期間の収益がマイナスの場合



Fidelity INTERNATIONAL

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。
ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
ファンドが有する主なリスク等(ファンドが主に投資を行うマザーファンドが有するリスク等を含みます。)は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動リスク

基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。

為替変動リスク

Aコース／Cコースは為替ヘッジを行うことで、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行う際には当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。Bコース／Dコースは為替ヘッジを行わないため、外貨建の有価証券等に投資を行う場合には、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。

カントリー・リスク

投資対象国及び地域の政治・経済・社会情勢等の変化、証券市場・為替市場における脆弱性や規制等の混乱により、有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。税制・規制等は投資対象国及び地域の状況により異なり、また、それらが急遽変更されたり、新たに導入されたりすることがあります。これらの要因により、運用上の制約を受ける場合やファンドの基準価額の変動に影響を与える場合があります。なお、新興国への投資は先進国に比べて、上記のリスクの影響が大きくなる可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

クーリング・オフ

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

流動性リスク

ファンドは、大量の解約が発生し短期間に解約資金を手当てする必要が生じた場合や、主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスクや、取引量が限られるリスク等があります。その結果、基準価額の下落要因となる場合や、購入・換金受付の中止、換金代金支払の遅延等が発生する可能性があります。

デリバティブ(派生商品)に関する留意点

ファンドは、ヘッジ目的の場合等に限り、有価証券先物、各種スワップ、差金決済取引等のデリバティブ(派生商品)を用いることがあります。デリバティブの価格は市場動向などによって変動するため、基準価額の変動に影響を与えます。デリバティブが店頭取引の場合、取引相手の倒産などにより契約が履行されず損失を被る可能性があります。

購入・換金申込受付の中止及び取消しについての留意点

金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策の変更や資産凍結を含む規制の導入、クーデターや重大な政治体制の変更等))があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。

Fidelity INTERNATIONAL

ファンドの費用（大和証券でお申込みの場合）

お客さまが直接的に負担する費用

料率等		費用の内容
購入時手数料	購入金額に右記の購入時手数料率を乗じて得た額とします。 購入金額：（申込受付日の翌営業日の基準価額／1万口）×購入口数	商品及び関連する投資環境の説明・情報提供、事務手続き等の対価として、購入時に販売会社にお支払いいただきます。
換金時手数料	ありません。	－
信託財産留保額	ありません。	－
スイッチング（乗換え）手数料	ありません。	－

購入時手数料率

購入金額	手数料率
5千万円未満	3.30%（税抜3.0%）
5千万円以上1億円未満	2.20%（税抜2.0%）
1億円以上5億円未満	1.65%（税抜1.5%）
5億円以上	0.55%（税抜0.5%）

（ご参考）

口数指定で購入する場合	金額指定で購入する場合
例えば、基準価額10,000円の時に100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。 購入金額＝（10,000円／1万口）×100万口＝100万円 購入時手数料＝購入金額（100万円）×3.30%（税込）＝33,000円 となり、 購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくこととなります。	購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額（お支払いいただく金額）となるよう購入口数を計算します。 例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料（税込）をいただきますので、100万円全額が当該投資信託の購入金額とはなりません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

料率等		費用の内容
運用管理費用（信託報酬）	年1.6445%（税抜 1.495%）	ファンドの純資産総額に対し、左記の率を乗じた額が運用管理費用（信託報酬）として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、Aコース／Bコースはファンドの毎計算期の最初の6ヵ月終了日（当該日が休業日の場合は翌営業日）及び毎計算期末または信託終了のとき、Cコース／Dコースは毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
その他費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからその都度支払われます。ただし、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示できません。	組入有価証券の売買委託手数料：有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 信託事務の諸費用等：投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用及び受託会社の立替えた立替金の利息
	法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.10%（税込）を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、Aコース／Bコースは、毎計算期の最初の6ヵ月終了日（当該日が休業日の場合は翌営業日）及び毎計算期末または信託終了のときに、Cコース／Dコースは、毎年2月及び8月に到来する計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。	法定書類等の作成等に要する費用：有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷及び提出等に係る費用 監査費用：ファンドの監査人等に対する報酬及び費用

※当該手数料・費用等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

Fidelity INTERNATIONAL

お申込みメモ（大和証券でお申込みの場合）

購入単位	100円以上1円単位*または100口以上1口単位 *購入時手数料および購入時手数料に対する消費税等に相当する金額を含めて、上記単位でご購入いただけます。 ※ただしスイッチングの場合は、1口単位です。
購入・換金価額	購入および換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当たり）
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社にてお支払いします。
スイッチング	各コース間にてスイッチングが可能です。 スイッチングに伴うご換金にあたっては、通常のご換金と同様に税金がかかります。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークにおける銀行の休業日においては、スイッチングを含めお申込みの受付は行いません。
申込締切時間	原則として、午後3時30分までに購入・換金の申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込み受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として無期限（2023年3月29日設定）
繰上償還	各ファンドの受益権の残存口数が30億口を下回った場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算日	Aコース／Bコース:原則、毎年8月20日 ※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。 Cコース／Dコース:原則、毎月20日 ※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。
収益分配	Aコース／Bコース: 年1回の決算時に、収益分配方針に基づいて、分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 販売会社との契約によっては、収益分配金は、税引き後無手数料で再投資が可能です。 Cコース／Dコース: 年12回の決算時に、収益分配方針に基づいて、分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 販売会社との契約によっては、収益分配金は、税引き後無手数料で再投資が可能です。
課税関係及び税金	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。Aコース／Bコースは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 Cコース／Dコースは、NISAの対象ではありません。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 原則として、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※上記は2025年3月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。

委託会社	フィデリティ投信株式会社	**運用の委託先**	FIAM LLC	**受託会社**	三菱UFJ信託銀行株式会社	**販売会社**	大和証券株式会社

Fidelity INTERNATIONAL

MEMO

MEMO

MEMO

ご注意点

- 当資料はフィデリティ投信によって作成された最終投資家向けの投資信託商品販売用資料です。 投資信託のお申込みに関しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- 「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンドAコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）」「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンドCコース（毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジあり）／Dコース（毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし）」が投資を行うマザーファンドは、主として世界（除く日本）の企業の株式等を投資対象としていますが、その他の有価証券に投資することもあります。
- ファンドの基準価額は、組み入れた株式やその他の有価証券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた株式やその他の有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。すなわち、保有期間中もしくは売却時の投資信託の価額はご購入時の価額を下回ることもあり、これに伴うリスクはお客様ご自身のご負担となります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受取りのうえ内容をよくお読みください。
- 投資信託説明書（交付目論見書）については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、当ファンドの販売会社につきましては以下のホームページ（https://www.fidelity.co.jp/）をご参照ください。
- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。

IM250328-1 CSIS250318-3 商品ページはこちら

Fidelity INTERNATIONAL